

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H25 入学 現 5年	59.5 (0.97)			60.0 (0.92)		
H24 入学 現 6年	55.8 (0.84)	69.0 (0.92)	57.0 (1.02)	54.2 (0.81)	70.0 (0.88)	34.0 (0.77)
H29 正答率の全国比		(0.92)	(0.99)		(0.89)	(0.74)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H29 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<学習状況調査から読み取れる実態>

◇5・6年共に、「この問題で何が問われているのか。」「何が必要な条件なのか。」がとらえきれなかったり、条件に応じた解答ができなかったりする児童が多い。

◇5年は、国語・算数ともに、県平均を下回っている。国語は、「読む」力が最も不足しており、「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える」「目的に応じて中心となる語を捉える」が県正答率に対して大きく下回っている。また、「話す・聞く」の「司会の役割を理解し、話し合いを進める」や、「書く」の「メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」も低い。算数は、問題によって県正答率を上回るものも見られるが、基本的な「知識・理解」の力が不足しているため、全体的に低い結果となっている。

◇6年は、国語が大きく伸びてきているものの、国語・算数ともに全国に比べて低く、特に算数はB問題が全国平均より大きく下回っている。算数は、基本的な「知識・理解」の力が不足し、全体的に低い結果となっている。国語は、A問題については、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」が全国正答率を大きく下回っているが、B問題については全国並みの結果を出し、伸びている。活用問題にも積極的に取り組んできた成果が出ていると考えられる。

<意識調査から読み取れる実態>

◇5・6年共に、「将来の夢や目標をもっている」「学校に行くのが楽しい」「算数は将来役に立つ」「国語の勉強が好き」とする児童の割合が高く、意欲をもって学校生活を送っていることがわかる。また、学校内外で読書に親しみ、図書館利用の割合も高い。地域の行事への参加率も高く、地域とのつながりも深い。家庭学習については、5・6年共に「宿題を必ずする」児童が多く、出された課題はきちんと取り組んでいる。しかし、「自分で計画を立てて勉強をしている」児童の割合は、5年は県に比べて高いのに対し、6年は低く、学習に対する意識に課題が見られる。ゲームや携帯・スマートフォンの使用時間は個人差が大きく、長時間使用の児童の割合が県に比べて多いことが課題である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

- ・国語・算数科を中心として、全職員で共通理解を図りながら指導方法や指導体制の工夫改善を行い、T T及び少人数による習熟度別学習の充実を図る。
- ・全教育活動で「話す、聞く、読む、書く」活動を意識し、言語活動を充実させる授業づくりを実践する。
- ・西部型授業を行い、「授業づくりのステップ 1・2・3」や授業改善チェックリストを活用することで、日々の授業を教師自身が振り返る機会を多くし、より質の高い授業を行う。

②活用力の向上のための工夫

- ・全ての授業において、目的や条件をふまえて、考えを整理しまとめる時間や考えを交流する場を確保し、「考えることを楽しむ授業」「学び合う授業」づくりを行い、思考力・判断力・表現力を高める。
- ・既習事項を確認したり、活用したりする機会を多く取り入れ、児童が学んだ喜びや有用性を感じることができるようにする。

③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

- ・立腰教育を基盤にして学習規律の定着を図り、気持ちのよい「返事」「挨拶」「言葉遣い」「話を聴く姿勢」を全職員で徹底させる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間は、(月)音読タイム、(火)やる気タイム、(木①)漢字タイム、(木②④・金)計算タイムの目的や実施計画を共通理解し、実施した結果を情報交換することによって、基礎的な学力が向上するように改善を加えていく。
- ・週3回30分間の放課後の「やる気タイム」は、級外による学年担当を配置し、全職員で個別学習を行っていくことを継続する。また、学力向上強化月間(7・8月, 11月, 2月)では、保護者や地域の方に学習ボランティアとして多くの方に丸つけに来ていただくことで、児童の意欲をさらに高めたり、個別指導が充実したりするように行う。
- ・操作活動を重視した算数コーナーを設け、量感や図形の感覚を育成する。
- ・児童の学力に応じた宿題の出し方を工夫し、テーマや条件を設定した作文や日記を出したり、授業と家庭学習がつながるような課題を出したりして、活用力を高める。
- ・個に応じた学習に取り組ませたり、読書の質を向上させたりするために、「学びのすすめ」や「武雄市おすすめの本リスト」を積極的に活用する。
- ・低・中・高学年別の「家庭学習の手びき」を家庭の学習する場に掲示して、毎日実践するように指導し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。
- ・毎月、「生活振り返り週間」を計画的に実施して、基本的な生活習慣や学習習慣を振り返らせ、継続して指導を行っていくことで学力向上につながる基本的な習慣を身に付けさせる。
- ・「学力向上便り」を通じて、児童の学習の様子や読書の取り組み等を家庭に知らせ、よりよい家庭での生活・学習習慣づくりの啓発を行う。
- ・学校生活の中での様々な場で、自分が感じたことや考えたこと、学んだこと、また、友達や他の方々のよいところや頑張りを振り返る機会を意図的に作ることで、言語力を高めたり、お互いを認め合ったりする気持ちを育てていく。